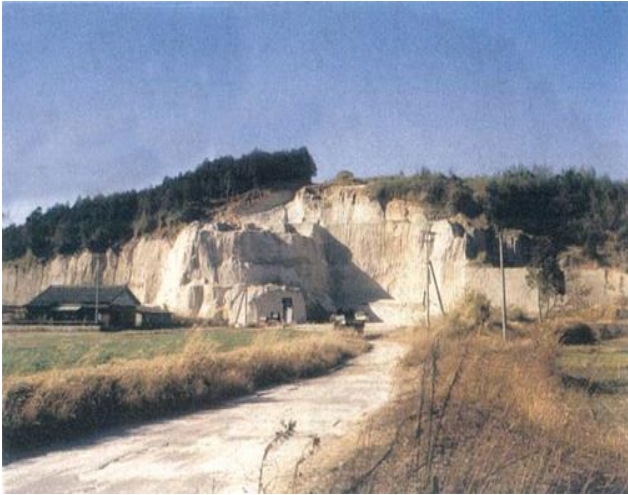
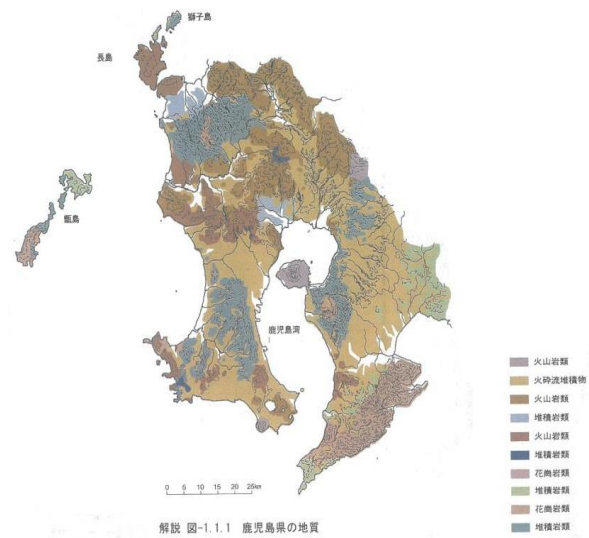


(継続提案)				
No. 10	技術開発 提案名	入戸火砕流堆積物（シラス）を利用した建築分野における次世代型コンクリートの技術開発		
事業者	・株式会社アトリエ・天工人 ・東京エスオーシー ・東京大学 ・株式会社プリンシプル			
技術開発 経費の総額 （予定）	約 135 百万円	技術高度化 の期間	平成26年度～ 27 年度	
住宅等における環境対策や健康向上に資する技術開発 ■ 住宅等におけるストック活用、長寿命化対策に資する技術開発 住宅等における防災性向上や安全対策に資する技術開発				
背景・目的	シラスをコンクリート原材料の骨材として利用することで、コンクリートの長期高耐久・高性能・長寿命化を目指す。			
■技術開発の概要 本研究開発は、①シラスコンクリート利用による建築物の高耐久性・長寿命化、②未利用資源であるシラスを活用した建築用コンクリートの開発、③その事による天然素材（天然砂・枯渇性天然資源）の使用量の削減、④シラスの特性を活かした自己充填コンクリート利用による、品質の安定と施工不良の防止、⑤将来的な資源循環を目指した、完全リサイクルコンクリートの可能性、5つの要素から住宅市場へのシラスを利用したコンクリートの製造から普及までを含めた技術開発を目的としている。 昨年度までの研究成果で一般建築物用、木造基礎用の基本的な研究は終了している。その成果を利用し東京都内で大臣認定を取得した住宅が1棟竣工している。 今年度の研究では、普及を目指し、経済性なども考慮したバリエーションの検証を進めていく。				
				
JIS A 1151:拘束されたコンクリートの乾燥収縮ひび割れ試験		シラスコンクリートの試験練り		



シラスの地山



解説 図-1.1.1 鹿児島県の地質
(鹿児島県地学会写真集編集委員会「写真集・地球からのメッセージ鹿児島」より引用)
鹿児島県での火砕流堆積物分布

総評	廃材となっているシラスの利用に着目して高耐久のコンクリートを開発する先導性のある技術開発で、基本的な要素技術の開発や実建物の整備など、着実な成果が認められる。最終年度となる本年度は、当初計画を踏まえた着実な成果のとりまとめに期待する。
-----------	--